

令和3年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会実績報告～

部会名	就労支援部会	部会長・担当者	能野伸治（心促福祉作業センター）
-----	--------	---------	------------------

メンバー:

クローバーセンター、デパール、防府総合支援学校、心促福祉作業センター、ふれんず、コロニー協会、愛光園、あおぞら、夢かれん、はあと、防府商工会議所、丸久、ほうふ若者サポートステーション、ハローワーク防府、防府市障害福祉課

テーマ：働く意欲のある人が「頑張って働こう！」と思える職場がある防府	
長期目標	<p><一般就労> ・ 障害者雇用の企業が増える ・ 働く障害者の力が発揮できる。</p> <p><福祉就労> ・ 工賃が最低賃金に少しでも近づく。 ・ 働く意欲のある障害者が活躍できる場所がある。</p>
今年度の目標	<p><一般就労> ・ コロナ禍による障害者雇用の課題を把握し、協議会として取り組めることを考える。</p> <p><福祉就労> ・ コロナ禍による福祉的就労の課題を把握し、協議会として取り組めることを考える。</p>
課題	<p><一般就労> ・ コロナ禍による雇用情勢の変化（求人の減少、雇い止めなど）</p> <p><福祉就労> ・ コロナ禍による作業活動の減少、施設受け入れの体制など</p>
活動実績	<p><執行部> ＊コロナ禍により年1回の活動となった（3/15） 部会の「あり方」「役割」「体制」「活動」についての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会の設置要綱から、「関係機関によるネットワークの構築に関すること」「社会資源の開発及び改善に関すること」の部分を中心に、次年度以降も取り組んでいくことを確認。 ・ 体制について、部会長を2年毎に交代し、副部会長が次期会長になる。 ・ 企業部、福祉部を同時開催とし、2、3ヶ月に1回の開催を目安とする。 <p>次年度参加メンバーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに事業開始した就労系事業所への参加依頼（ライクユー、ピエネスタ） ・ 委託相談事業所への参加依頼（3事業所） ・ ほうふ若者サポートステーションや丸久は、必要時に参加依頼
	<p><企業部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により活動実績はありません。
	<p><福祉部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により活動実績はありません。

令和4年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会活動計画～

部会名	就労支援部会	部会長・担当者	能野伸治（心促福祉作業センター）
-----	--------	---------	------------------

メンバー:

市内就労系福祉サービス事業所（9カ所）、市内委託相談事業所（3カ所）、鳴滝園障害者就業・生活支援センター、ハローワーク防府、防府商工会議所、防府市障害福祉課

テーマ:

働く意欲のある人が「頑張って働こう!」と思える職場がある防府

長期目標	地域の障がい者就労に関わる関係機関によるネットワークを構築・維持し、地域に必要な障がい者就労に関する社会資源の開発や改善を行なっていくこと。
今年度の目標	地域の障がい者就労に関わる関係機関のネットワーク再構築と情報共有を行う。 また、これまで実施できていなかった見学会等の活動を、状況に合わせて行っていく。
課題	部会の活動自粛や就労系事業所の増加によりネットワークが弱く、情報共有や交流が少なくなっている。
活動内容(予定)	<ul style="list-style-type: none"> * 新たに加わった就労系事業所や委託相談事業所を含め、情報共有や就労に関する意見交換を行う。 * 見学会等の活動を状況に合わせて実施する。 * 活動回数 / 1年間で3～4回

令和3年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会活動実績～

部会名	研修部会	部会長・担当者	山田 正寛(あおぞら)
-----	------	---------	-------------

メンバー:

企画委員: 山田(あおぞら) 突貫(華の浦) 家永(つぐみ) 福田(みらくる楽さん家) 村川(防府市社会福祉協議会)

アドバイザー: 竹原(ゆめサポート相談所) 津田(夢かれん) 沖井(たいよう) 古谷(三田尻訪問看護ステーション)

部会員: 各事業所 1 名

テーマ: 一人で悩んでいる人がいない防府市

長期目標	サービス提供職員全体の資質向上
令和3年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○他部会や事業所間のネットワーク作り ○研修を用いて部会員及び各事業所のスキルアップ ○研修企画を通じて、各事業所のネットワーク作り ○地域課題を基にした防府研修の企画・運営
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ファシリテーションの能力の不足 ○研修頻度の減少 ○研修参加人数の低下 ○オンライン研修の不慣れ・リスク(ウィルス等) ○企画委員の企画会議の回数が多い ○研修企画委員の負担が多い ○研修部会員の役割分担ができていない (研修部会の認知度の不足)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○研修企画 随時オンラインにて開催。(15回程度開催) ○防府研修 日時 2/18(金) 18:30~20:15 (前回より15分延長) テーマ: 事業所の困った! をみんなに相談しよう。 ～サービスの枠を超えて1人の幸せを考える～ オンラインにて開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・zoom を用いたオンライン研修にて各事業所で悩んでいることをグループに分かれて共有、検討をした。 ・協議会の説明をおこなった。 ○その他・気づき <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画がぎりぎりになってしまった為、企画会議がタイトになった。 ・参加事業所が少なく、前回の研修と同じ事業所の参加が多い傾向があった。

令和4年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会計画～

部会名	研修部会	部会長・担当者	山田 正寛（あおぞら）
-----	------	---------	-------------

メンバー:

副部会長…家永(つぐみ)

企画委員…福田(みらくる 楽さん家) 村川(防府市社会福祉協議会)

アドバイザー…竹原(夢サポート相談所) 津田(夢かれん) 古谷(三田尻訪問看護ステーション) 沖井(たいよう)

部会員…市内事業所から1名参加

テーマ：一人ひとりの幸せをみんなで考える防府市

長期目標	<p>サービス提供職員全体の支援に対する新しい視点の拡充</p> <p>ネットワーク作り</p> <p>オンラインでの研修機会の獲得</p>
今年度の目標	<p>○部会員が各班に分かれ研修のテーマにしたいことを決める</p> <p>→班の数は未定…参加人数を確認後、検討</p> <p>→研修方法等は各班に任せる</p> <p>→各班には企画委員を配置する</p> <p>○研修対象者の拡大</p> <p>→障害福祉サービス提供事業所に限らず地域の方などへ参加を促す</p> <p>○研修参加者全体のスキルアップ</p> <p>○研修企画を通じて、各事業所のネットワーク作り</p> <p>○地域の課題を元にした防府研修の企画・運営</p>
課題	<p>○研修部会員の役割分担ができていない</p> <p>(研修部会の認知度の不足)</p> <p>○企画会議で質問や発言を遠慮、戸惑ってしまう</p> <p>○企画委員のファシリテーション能力が不足しており、意見の吸出しが十分にできていない</p> <p>○部会員の人数確保が難しい</p> <p>○地域課題地域で困っていることを元にした研修作りができていないことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で困っていることを元にした研修作り ・オンライン研修等リモートの機材不足 ・コロナ感染状況による運営方法の変化 ・企画委員の人材不足 <p>○研修参加人数の低下</p> <p>○オンライン研修の不慣れ・リスク(ウィルス等)</p> <p>○企画委員の企画会議の回数が多い</p> <p>○研修企画委員の負担が多い</p>

活動内容(予定)

○研修企画

- ・可能な限り対面会議を行う。
- ・感染状況に応じてリモートを活用する。
- ・今年度の研修は講師を招いて行う。
- ・部会員の役割を明確にし、班に分かれ企画委員を中心に企画を行う。

○企画会議

- ・可能な限り対面会議を行う。
- ・感染状況に応じてリモートを活用する。
- ・日程については、各事業所、各参加者の予定を考慮し調整する。

※可能であればハイブリット会議も検討する。

令和3年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会活動実績～

部会名	子ども発達支援部会	部会長・担当者	徳久 央子(防府市なかよし園)
-----	-----------	---------	-----------------

メンバー: たいよう、ひまわり、たんぼぼ、はなのうら、つくみ防府、つくみ右田、アンジュ、てだのふあ、あゆみの里、りぶらす、放課後りぶらす、jump、キャバ入、みらくる楽さん家、ミライエ楽さん家、ミラサーチ楽さん家、フィールド、どんぐり、なかよし園、加バ-センター、華の浦相談、ほのぼの相談室、えびすや、支援センター、防府総合支援学校、地域コ-ディネーター、事業団ホ-ムバ-センター、子ども家庭支援センター海北、学校教育課、健康増進課、子育て支援課、障害福祉課

テーマ: ～すみなれた防府市でより安心して暮らしていくために～
 発達支援が必要な児のライフステージに応じて、途切れない支援をしていく

長期目標	関係機関が地域課題を把握し、解決に向けて取り組む 発達支援が必要な児が、ライフステージ（乳児期→幼児期→学童期→思春期→青年期）に応じた必要な支援を受けながら、地域で暮らすための体制づくり
令和三年度の目標	○関係機関の連携維持・強化 ○部会員の資質向上（成人期に向けた療育・支援について把握） ※療育・支援の検討に向け、各関係機関（行政、教育、相談支援事業所、サービス提供機関）で共有した基盤を作る。
課題	○部会員である相談事業所、サービス提供事業所、行政等、それぞれの課題が異なるため、各課題を精査、抽出し出来ることから取り組んでいくことが必要。
活動内容	○定例会の開催 ・第1回 日時 令和3年11月5日(金)10時～11時半 オンライン研修 内容 保護者支援について 講師 山口県立大学 藤田久美先生 ・第2回 日時 令和4年1月28日(金)（コロナ感染予防のため中止） 内容 今年度の振り返りと来年度に向けて（グループワーク） ○企画会議の開催等 ・コアメンバー打ち合わせ… 4回 ○その他・気づき コロナ禍の影響で今年度の研修はオンライン研修一回のみの開催。研修や企画会議をオンラインを活用して行った。コロナ禍でオンラインでのやりとりの機会が増えており、部会でのオ

オンライン研修、会議においてもスムーズに開催することができた。その反面、顔のみえる関係作りがしづらくなっている。

コアメンバーの打合せなどで、色々な課題があがるものの部会構成メンバーそれぞれの立場で考える課題が異なり大変さは共有するものの具体的な取り組みに至っていない状態である。今後は各課題を精査・抽出し出来ることから取り組めるように進めていきたいと考える。

課題に取り組みながら関係機関の連携維持、強化を図っていきたい。

令和4年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会計画～

部会名	子ども発達支援部会	部会長・担当者	白井 孝典（ひまわり）
-----	-----------	---------	-------------

メンバー: たいよう、ひまわり、たんぼぼ、はなのうら、つくみ防府、つくみ右田、アンジュ、てだのふあ、あゆみの里、りぶらす、放課後りぶらす、jump、キャパス、みらくる楽さん家、ミライエ楽さん家、ミラサーチ楽さん家、フィールド、どんぐり、なかよし園、加バ-セター、華の浦相談、ほのぼの相談室、えびすや、支援センター、防府総合支援学校、地域コ-ディネーター、事業団ホ-ムバ-セター、子ども家庭支援センター海北、学校教育課、健康増進課、子育て支援課、障害福祉課

テーマ：～すみなれた防府市でより安心して暮らしていくために～ 発達支援が必要な児のライフステージに応じて、途切れない支援をしていく	
長期目標	関係機関が地域課題を把握し、解決に向けて取り組む 発達支援が必要な児が、ライフステージ（乳児期→幼児期→学童期→思春期→青年期）に応じた必要な支援を受けながら、地域で暮らすための体制づくり
今年度の目標	○地域課題の精査及び抽出。課題への取り組み方法を検討。 ※療育・支援の検討に向け、各関係機関（行政、教育、相談支援事業所、サービス提供機関）で共有した基盤を作る。
課題	○会員である相談事業所、サービス提供事業所、行政等、それぞれの課題が異なるため、各課題を精査、抽出し出来ることから取り組んでいく仕組み作り。 ○ライフステージに応じた必要な支援を受けるために、各ステージでの必要な支援を教育と福祉等との連携で途切れない支援体制を検討する。
活動内容(予定)	○定例会の開催（年2回程度） ・内容未定 ○企画会議の開催（随時） ・課題の精査及び抽出 ・定例会の準備

令和3年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会活動実績～

部会名	保護者サークル・団体連絡会	部会長・担当者	白石（ゆめサポート相談所）
-----	---------------	---------	---------------

メンバー：めばえ友の会・防府市肢体不自由児父母の会・手をつなぐ育成会・くるみの会
 親父の会・ひめりんごの会・アップルクラブ・山口県自閉症協会防府分室
 ポプリの会・わかくさ園保護者会・障害福祉課・ゆめサポート相談所・クローバーセンター

テーマ：保護者も当事者もきょうだいも家族みんなが困らない社会を目指して

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> • みんなの不安を考えていき、何が必要なのかを考える。 • 当事者に近い、親の意見・要望を集約して届けていく為にも、部会員が増えるといい。長く参加されていない団体にも改めて参加を呼び掛けていくし、各団体の会員がどうすれば増えるかについても協議できると良い。
本年度目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 災害時の避難について ② 新型コロナの状況下において発生する、心配なこと・困っていることについて
課題	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ下で、いかに会員の声をすくいあげるかが困難になっていること。 • 当事者本人の団体が防府に無いこと。 • 部会の参加団体が減っていること。各団体それぞれの会員自体が減っていたり、高齢化があること。
活動内容	<p>◆令和3年5月・9月：新型コロナの状況にて開催中止</p> <p>◆第1回定例会 令和3年7月13日（火） 協議の結果、本年度は上記2つの目標とすることに。話し合いの中から出た、下記の要望を運営委員会で伝えるが、特に協議もなされぬまま現在に至る。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 障害者の本人と家族が直接避難できる、福祉避難所の要望。 • 重層的支援体制整備事業、特に、属性を問わず受け止める窓口での、相談→フォローアップをぜひ実施してほしい。 • 緊急時のショートステイの拡充をしてほしい。 • 利用中の事業所で新型コロナが発生した時に、情報が錯綜に巻き込まれる。市内事業所等での発生状況や対応方針が一目で把握できるようになれば。 <p>◆第2回定例会 令和3年11月9日（火） 【コロナ禍における心配事や疑問点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本人が濃厚接触者でなくとも、例えばコロナが発生した事業所を利用していただけで、ヘルパー含め障害福祉サービスの利用が止まってしまい困る。 • ショートステイを受け入れてもらえない。 • 通常の入院や宿泊療養での対応が困難と思われるうちの子が、陽性になった場合どうなる？ 親は付き添えないの？ • 入院先に障害理解のある職員がいるのか、いないなら用意できないか。 • 親が入院になり、子が濃厚接触者の時に、誰がどう支援してくれるのか。

【災害発生時の避難等について、現状確認】

市障害福祉課 米村氏・島氏より、下記現状について説明あり。

- ・現時点の防府市では、福祉避難所へ直接避難とはなっていない。
避難所が開設→3日以上経過し、実際の様子を見た後→要配慮者からピックアップされた方が福祉避難所へ、との流れ。

（防府市の要配慮者は4千人。コロナ下で、更なるスペース等も必要の為）

- ・避難所に確保している物資に限りある為、在宅避難者は物資を受け取れない。
- ・災害時の避難について、個別に計画を立てる等には至っていない。
- ・本人が避難するかどうかの声をかけを希望しても、それに対応してくれる地区とそうでない地区があり、それは非公開。

それに対して、下記のような意見が挙がる。

- ・避難所に行きたくてもできないから在宅避難なので、そういう場合にはやはり避難物資を受け取りたい（特に、自宅の備蓄が切れた時が心配）。
- ・3日もたない。そういう人がすぐ行ける避難所を作ってほしい。

◆第3回定例会 令和4年1月11日（火）

・【防災危機管理課の出前講座について】

- ・福祉避難所へは、やはり直接避難できない。担当部署が調整した上での受け入れになる。
- ・直接避難したければ、各自が施設と、事前に個別に契約するのはどうか。
- ・要配慮者の名簿については、個人情報の壁がある。
- ・地域生活支援拠点が整備済みと聞いた。
災害時の避難も、緊急ショートで対応可能では。→「え、難しそうなんですか!？」

※障害福祉課から前回聞いた情報との差異あり

- ・福祉避難所ですら3日、という縛りはない。必要があれば動く。
- ・在宅避難の場合に支援物資を受け取れない、ということもない。
ケースバイケースだろうが、在宅避難の情報を（本部へ）まずもらいたい。

◆第4回定例会 令和4年3月8日（火）

・【災害時の避難、新型コロナについて意見交換】

- ・3日在宅避難できるよう、物資を備蓄するようにした。
それが、コロナで自宅療養時にも役立ちそう（偏食で支援物資が…にも）。
- ・大勢いる体育館等が難しい障害特性者には、配慮や工夫をしてもらえれば。
- ・一人で移動時など、誰も側にいない時の避難時の対応が心配。
- ・親亡き後に、一人になった時の避難についてはやはり心配。
- ・電話が不通も想定し、地域で避難の声かけがどこまでしてもらえるか…
- ・濃厚接触以上は、県が障害特性に配慮のうえ対応してくれると聞いて安心した。
一方で、感染者が増えた時にも担保されるのか不安。
人手不足等で、障害特性をよく知らない人が関わることにならないか心配。

令和4年度 防府市地域総合支援協議会 ～部会計画～

部会名	保護者サークル・団体連絡会	部会長・担当者	白石（ゆめサポート相談所）
-----	---------------	---------	---------------

メンバー：めばえ友の会・防府市肢体不自由児父母の会・手をつなぐ育成会・くるみの会
 親父の会・ひめりんごの会・アップルクラブ・山口県自閉症協会防府分室
 ポプリの会・わかくさ園保護者会・障害福祉課・ゆめサポート相談所・クローバーセンター

テーマ：保護者も当事者もきょうだいも、家族みんなが困らない社会を目指して

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> • みんなの不安を考えていき、何が必要なのかを考える。 • 当事者に近い、親の意見・要望を集約して届けていく為にも、部会員が増えると良い。長く参加されていない団体にも改めて参加を呼び掛けていくし、各団体の会員がどうすれば増えるかについても協議できると良い。
今年度の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害時における障害者の避難について 2 新型コロナの状況下において発生する、心配なこと・困っていることについて
課題	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ下で、いかに会員の声をすくいあげるかが困難になっていること。 • 当事者本人の団体が防府に無いこと。 • 部会の参加団体が減っていること。各団体それぞれの会員自体が減っていたり、高齢化があること。
活動内容（予定）	<ul style="list-style-type: none"> • 第1回目の定例会 令和2年5月10日（火） 会場：身体障害者福祉センター →今年度の取り組みについて協議、各団体からの連絡や相談。 ※以降、奇数月の第二火曜日に定例会を実施予定。 1 災害時における障害者の避難について <ul style="list-style-type: none"> • 要望や心配といった、自分達の声はどうすれば届くのか。 • 現状の課題を改善する為に、どうすれば貢献できるか。 →本年度においても検討や議論を続けていくことに。 <p>昨年度の協議において、災害時の避難の現状と課題を知れたのは良かったが、出てきた自分たちの要望や心配を運営会議で報告するも、どうもならなかった。まだまだ心配なことや要望、現状の課題も残ったままだが、災害はいつ発生するか分からないし、集めた声が「へー」で終わるのも困る。</p> 2 新型コロナの状況下において発生する、心配なこと・困っていることについて <ul style="list-style-type: none"> • 毎回ある「各団体からの連絡や相談」の所で取り上げていく。 • やはり、事例や要望を集積した上で、その声を届けていくことに。 <p>※防府市成年後見センターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> • この会で集めた声や要望について、会のオブザーバーである讚井氏を窓口として届けていくことに。